

マツモムシ

Notonecta triguttata

マツモムシ科



マツモムシ（成虫、標本）

名前の由来

マツモなどの水草のはえるところにすむ虫という意味で名づけられたらしい。漢字名：松藻虫

形態的特徴

成虫の特徴：体長約13mm。淡黄色の地に黒色の斑紋がある。後肢は長くオール形。背を下にして泳ぐ。若虫の体色は光沢のある銀白色

類似種：キイロマツモムシ。

キイロマツモムシは黄白色で黒紋が無い。

生息環境・分布

平地や丘陵の池沼。

分布：国外分布は、ロシア極東部、朝鮮半島。国内分布は、北海道～九州。北海道内では、普通に分布。

十勝地方では、普通に分布。



マツモムシ(成虫)。背泳ぎをして落下昆虫などを捕らえる

食性・他の生物との関わり

背を下にして水面近くを泳ぎながら、水面に落ちた昆虫類・オタマジャクシ・小魚などを捕食、体液を吸汁する。

繁殖生態・寿命

水草に卵を産み付ける。

興味深い話

■捕食性水生昆虫は生態系の上位にランクされる。

■口針を持ち、刺されると激しく痛み腫れる。

■翅（はね）の表面に細かい毛がたくさん生えていて、そこに空気が膜状について銀色に輝いて見える。

■ふだんは仰向けで泳いでいるが、飛翔する時は背中を上にして水面に浮上し、そのまま直に水面から飛び立っていく。

配慮事項

流れの弱い水生植物が繁茂した空間が必要である。農業害虫のウンカ・ヨコバイに対する農薬が水生カメムシ類に与える影響が懸念される。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
確認できる時期													

参考文献

「日本産水生昆虫検索図説」川合禎次 東海大学出版会 1995
 「原色日本昆虫図鑑（下）」伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦勇 保育社 1993
 「名前といわれ昆虫図鑑」大谷剛・栗林慧 偕成社 1999

「滋賀の水生昆虫・図解ハンドブック」谷田一三・竹門康弘 監修 滋賀県小中学校教育研究会理科部会 編 新学社 1991
 「水辺の昆虫」今森光彦 山と溪谷社 2000
 「川の生物図典」財団法人リバーフロント整備センター 1996

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類